



尼崎市市制110周年記念 基本方針

尼崎市 総合政策局 政策部 都市政策課

尼崎市市制110周年記念基本方針のポイント

基本理念

2016.10.8

市制100周年

- 先人たちの歩みに感謝
- 今後も「ひと」や「まち」がさらに「咲く」よう、新たな取組の種を撒く



テーマ・ロゴマーク

- 地域を巻き込み、R7上半期に市民とともに作り上げていく。
- テーマは各地域課でのワークショップを踏まえて作成。
- ロゴはデザイン公募を行い、審査を経て決定。

2017~2026

最初の10年

- 市制100周年に際して撒いた取組の種が、どのような花を咲かせたのかを、市民とともに振り返る

(仮)「これまでの10年」

- 市民とともに、市制100周年後の「これまでの10年」を振り返る。
- その結果を成果物として制作し、未来を考えるきっかけに。
(具体的に何を成果物とするかも含めて市民とともに議論する)

2026.10.8

市制110周年

- 「市制100周年の花束」に、この10年間で市民が育ててきた「新たな花」を添える
- まちの変化と成長を、「新たな種」に込めて撒く

推進体制

- 機動力を高めて運営する観点から、活動の当事者を中心にした「あまがさき110ミーティング」(110th MTG)を組成して運営。

序文

1916年（大正5年）に市制が施行された尼崎市は、2016年（平成28年）に市制100周年を迎え、市民とともにこの記念すべき年を大いに祝った。

その後10年が経過する2026年（令和8年）、本市は市制110周年を迎える。

この記念すべき機に、市制100周年にまいた様々な取組の種が、その後10年でどのように芽を出し、花開いたかを振り返り、このまちに生まれた変化と成長を未来のまちづくりにつなげ、市民のシチズンシップ※1・シビックプライド※2の高まりを目指すべく、ここに「尼崎市市制110周年記念基本方針」を策定する。

※1 シチズンシップ

社会を構成する一員として、より良い社会を創っていくため
一人ひとりが持つ当事者意識及び行動力

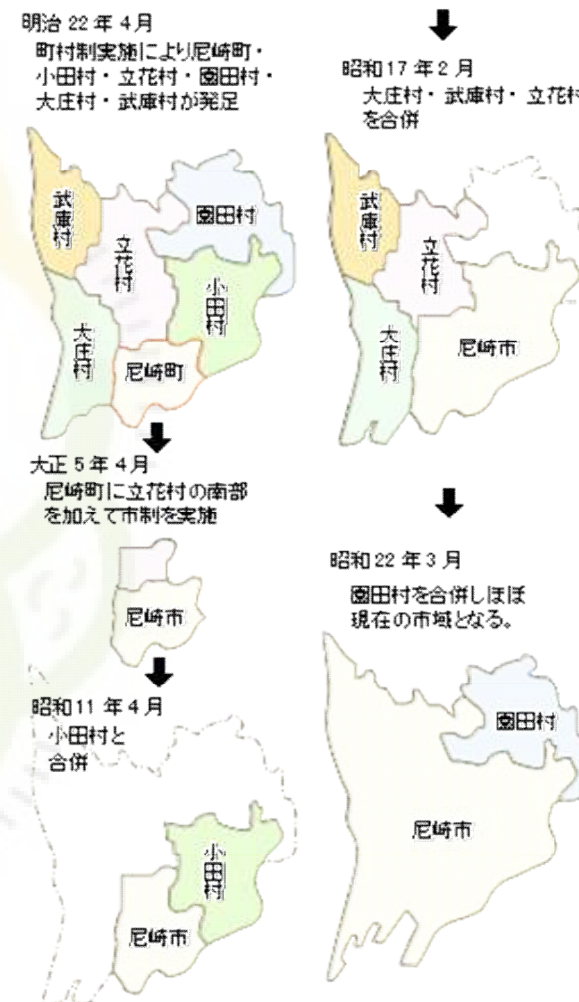
※2 シビックプライド

まちへの誇りと愛着



1 尼崎市の沿革（尼崎の歴史）

- ①大正5年（1916年）に尼崎町と立花村（東難波、西難波）の一部が合併し尼崎市が誕生（市制施行）
- ②昭和11年（1936年）尼崎市と小田村が合併し、新たに尼崎市が発足
- ③昭和17年（1942年）尼崎市と大庄村、武庫村、立花村が合併
- ④昭和22年（1947年）尼崎市と園田村が合併。ほぼ現在の市域となる。
- ⑤その後、臨海部の埋め立てにより、段階的に市域拡大。現在、総面積50.70平方キロメートル（東西8.3キロメートル、南北11.5キロメートル）



2 市制110年のあゆみ

1916年	市制施行により尼崎市誕生 6,496戸、人口3万2,013人 (県下で神戸・姫路両市について3番目)
1917年	市章制定 ✕
1918年	上水道完成
1922年	旧城郭内新庁舎を新築 (総工費9万円)
1936年	隣接する小田村と合併。2万7,676戸、人口12万4,711人 市章制定 ✕
1942年	大庄・武庫・立花の3か村を合併し、人口28万人余
1947年	園田村を合併し、人口23万余
1955年	防潮堤完成
1956年	自治大臣の承認を受け財政再建団体へ
1962年	現市庁舎と議事堂が完成
1971年	人口55万4,000人 (尼崎における人口のピーク)
2001年	特例市移行 (県下で初)
2009年	中核市移行 (県下で姫路・西宮両市について3番目)
2016年	市制100周年

2016年	自治のまちづくり条例制定 尼崎FUTURE GAME CENTERで「ATTF」登場
2017年	学びと育ち研究所設置
2018年	「本当に住みやすい街大賞2018 in関西」受賞
2019年	元号が「令和」に 尼崎城開城 生涯学習プラザの設置 ひと咲きプラザグランドオープン
2020年	市内初の新型コロナ感染者発生、コロナ禍へ 歴史博物館開館
2021年	外国人総合相談センター設置 シティプロモーションが3つのアワードを受賞
2022年	中学校給食スタート 市長が稲村市長から松本市長へ 「まちのイメージが良くなった」初の6割超え
2023年	新型コロナ5類移行、コロナ禍の終焉 近松門左衛門300回忌
2024年	白髪一雄生誕100年 映画「あまろっく」公開
2025年	大阪・関西万博 ゼロカーボンベースボールパーク開設 桂米朝没後10年
2026年	市制110周年 尼崎市立の児童相談所設置 学びの多様化学校設置

3 市制110周年の意義と基本理念

- 市制100周年は、1世紀にわたる長い歴史の大きな節目であったことから、それを盛大に祝うべく、市民・事業者を巻き込んで、プレ期間を含め、長期にわたってさまざまな取組を実施し、「次の100年」を見据えて、さまざまな「取組の種」を撒いた。
- 一方、市制110周年は、尼崎市の誕生から110周年が経過したことを祝うと同時に、さまざまな種を撒いた市制100周年を経て迎える「最初の10年」を祝う時でもある。
- 市制110周年は、今ここにいる市民が育んできた10年間の「取組の種」が、どのように芽を出し、花開いたかを振り返るとともに、先人たちがこれまで育ててきた「市制100周年の花束」に、「新たな花を添える」ものである。
- こうした「100年+10年」の振り返りを通じて得られた、このまちの変化と成長を、市民とともに、新たな「未来の花」の種に込めて撒き、また次の花を育て、咲かせていく。

【取組の種】

★新たな百年の礎となる取組。

- ・自治のまちづくり条例
- ・地域振興体制の再構築



- ・城内まちづくり
- ・観光地域づくり



4 市制110周年記念日・記念期間

- 市制施行日は大正5年（1916年）4月1日であるが、昭和11年（1936年）4月に小田村と合併し、その記念式典の日である10月8日を「市制記念日」として告示に定めている。
- こうしたことから、市制100周年記念日は、この市制記念日とし、「平成28年（2016年）10月8日（土）」としたところ。
- 市制110周年記念日についても、同様に市制記念日とする。

市制110周年記念日＝令和8年（2026年）10月8日（木）

- なお、今回、記念日が平日（木曜日）となっているが、1936年の市制記念日に際しては、「10月10日まで3日間、さまざまな祝賀行事が行われた」という史実も踏まえる中で、**市制110周年に際しても、10月8日（木）～10月10日（土）の3日間で祝賀行事**を行う。
- 記念期間は、**令和8年（2026年）1月1日から12月31日**の1年間とする。

5 市制110周年記念のコンセプト

- 市制110周年は、市制100周年にまいた様々な取組の種が、その後10年でどのように芽を出し、花開いたかを振り返りながら、市民のシチズンシップ・シビックプライドを高め、未来に向けた「新たな花」を咲かせることを目指している。
- こうした取組は、市だけで行うものでなく、市民・事業者・行政といった、さまざまな主体が“ジブンゴト”としてかかわることにより、まち全体が一体となって進められるもの。
- また、この10年を振り返ると、生涯学習プラザや尼崎城、ユース交流センターなど自らの「やりたい」ことを実現できる拠点が生まれ、それぞれの主体が、それぞれの思いを胸に「自治のまちづくり」に取り組んでいる。
- 市制110周年では、こういった、市民みんなの「やりたい」を応援し、未来に向けて「自治のまちづくり」を進めていくという視点から、コンセプトを「みんなの「やりたい」を、やろう」とする。

6 実施事業

- 周年事業は、集客を図った催しのみでなく、功績等を称えることや意識啓発のためのもの、魅力創出のためのまちづくりなど、さまざまな事業が考えられる。
- また、そうした事業の主体は行政だけでなく、市民、事業者など多様なものとなる。
- こうしたことから、**実施事業**については、以下のような考え方で整理する。なお、具体的な事業のうち市の予算を伴うものは、令和7年度に企画し、令和8年度に実施する。

(1)市主催事業	(2)市民・事業者等主催事業
<u>①特別事業</u> 市制110周年記念事業として、市が特別に実施する記念式典・記念事業	<u>①特別事業</u> 市制110周年記念事業として、市民・事業者等が特別に実施する記念式典・記念事業
<u>②拡充事業</u> 市の既存事業のうち、110周年に関する要素を取り入れた、いわゆる冠事業	<u>②拡充事業</u> これまでから市民・事業者等が実施している既存事業をベースとして、そこに110周年に関する要素を取り入れた、いわゆる冠事業

7 実施体制

- 市制100周年では「あまがさき100年会議」「あまがさき100年実行委員会」の2つの会議体を設置していた。
- 市制110周年は限られた時間の中で、より機動力を高めて運営していく必要があることから、これらを統合した、各団体の実務レベルと地域で活動する市民で構成される「**(仮) あまがさき110ミーティング**」(110th MTG)を設置し、市制110周年記念に係る取組を推進していく。



(参考) あまがさき110ミーティング メンバー

メンバー	肩書
石田 千春	兵庫県阪神南県民センター県民躍動室長
高村 陽子	あまがさき観光局 事業部長
井上 雅文	尼崎商工会議所 総務部副部長
山本 薫	尼崎市文化振興財団 事業課長
田口 貴裕	尼崎市スポーツ振興事業団 総務課課長補佐
林 瑞知子	尼崎市社会福祉協議会 地域福祉推進部副部長
太田垣 亘世	尼崎市国際交流協会 理事長
西田 明生	塚口六郵便局 局長（地方公共団体担当局長）
濱田 英世	尼崎市民まつり運営委員会 委員長
三宅 奈緒子	みんなのあま咲き放送局 局長
池田 流耀	阪神尼崎ユースセンターHygge スタッフ
渡邊 百笑	大学生（Up to you!第0～2期メンバー、みんなのサマーセミナー実行委員長）
武元 さおり	市内活動ミュージシャン
山川 真奈	地域活動等に取り組む保護者（sandwich home代表）

8 テーマ・ロゴマーク

- 市制110周年の機運を醸成するため、PRに用いるテーマ・ロゴマークを、市民とともに作成する。

【テーマ】

- 各地域課やユース交流センターと連携し、市内6地区等で市制110周年の歴史を振り返るワークショップを開催。
- 各地域の市民から得られた「市制110周年への思い」「最初の10年に取り組んだこと」などをとりまとめて、複数のテーマ案を作成。
- 複数のテーマ案について、ウェブ等で人気投票し、テーマを決定する。



【ロゴマーク】

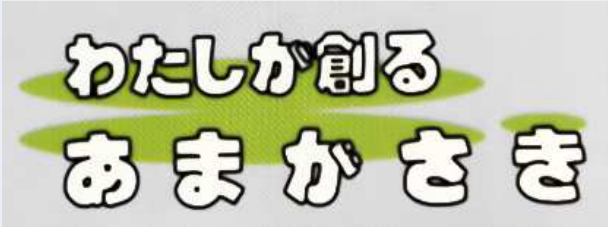
- 決定したテーマに基づき、周年事業を象徴するロゴマークのデザインについて、原案を市民公募する。
- 選考は、デザインや歴史・文化の専門家などの意見を聞きながら行う。
- また、「（仮称）こどもデザイン部門」を創設し、市内の小・中学生からもデザインを公募。
- 選考結果は、2025年10月8日に公表。



（参考サンプル）

←ChatGPTに作成させた
市制110年のロゴデザイン案

【参考】過去の周年事業におけるテーマ・ロゴマーク

	テーマ	ロゴマーク
市制70周年 (1986年)	尼崎が変わる	
市制80周年 (1996年)	わたしが創る あまがさき	
市制100周年 (2016年)	100周年 知れば知るほど “あまがすき”♥	

9 プレ期間企画「（仮）これまでの10年～100年を超えて～」

- 市制110周年は、市制100年のときのような大々的な「プレ事業」の設定はないが、来るべき市制110年を迎えるにあたっての機運を高め、未来を考えるための準備企画として、「（仮）これまでの10年～100年を超えて～」を実施する。

「（仮）これまでの10年～100年を超えて～」

- 市制110周年は、「市制100周年で撒いた取組の種がどのように花開いたかを振り返る」もの。
- その振り返りのプロセスを、市民とともに経験し、成果物を制作して公表する。
（成果物の媒体（冊子、動画、SNS等…）を何にするか等も、市民とともに議論して決める）
- この「（仮）これまでの10年」を、2026年の市制110年記念におけるシンボルの1つとし、未来を考える上での手がかりとしたい。



「これまでの10年」振り返り



成果物（イメージ）

10 当面のスケジュール

	R7.3 以前	R7.4	R7.5	R7.6	R7.7	R7.8	R7.9	R7.10	R7.11	R7.12	R8.1	R8.2	R8.3 以降
基本方針 策定	庁内検討	110th MTG等	確定										
テーマ検討	地域課と 調整	各地域で ワークショップ	確定										
ロゴマーク 作成			公募スキーム 検討	公募	審査	公表							
「最初の 10年」企画						各地域への 説明	メンバー 人選	ワークショップ、 成果物の作成	掲載内容 確定				
R8予算の 検討		施策評価への 盛り込み検討	予算編成方針への 反映検討	予算要求	査定	パブ コメ	主要事業で 打ち出し						
記念事業の 企画・実施				庁内への 冠事業依頼	予算要求	実施に向けた調整							
記念式典の 検討				概要の検討	予算要求	実施に向けた調整							
	内部管理事務	庁外との調整											